

2012



消防団概況

三重県松阪市

ごあいさつ

全国の消防団員の皆様が、日夜献身的な活動を続けておられますことに心より敬意を表するところであります。東日本大震災が発生して1年、多くの尊い命が犠牲となり、また、住民を守るために懸命に活動された消防団員や消防職員が殉職されました。犠牲になられた方々とそのご遺族に哀悼の意を表しますとともに、今もなお被災地で不自由な生活を強いられながらも懸命に頑張っておられる方々に、一日でも早く復興ができることを心よりお祈り申し上げます。

私たち消防団員は、地域の皆様方のご支援や団員のご家族に支えられ、消防の使命である火災や地震・風水害等の各種災害から地域住民の生命・身体・財産を守るため、常日頃から訓練を重ね、不測の事態に備えております。

なかでも、松阪市消防団では、東海地震、及び東南海・南海地震等の大地震の発生が危惧されるなか、大規模地震への対応を重点施策の一つとして掲げ、各分団へ救助用携帯資機材を配備する等、施設・装備の強化や、いざという時には迅速・確実な行動が取れるように訓練を重ねているところであります。これからの消防団は、常備消防と協力することはもちろん、自ら考え、計画し、訓練し、特に地域の皆様と連携して地域防災力の強化に努めていかなければならないと考えております。

今後も、地域防災の中核を担う消防団の更なる活性化を図るため、団員相互の融和と結束を図り一丸となって「安全で安心な地域社会の実現を目指して」活動していく覚悟であります。引き続きご支援ご協力をお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

松阪市消防団統括団長 **田所照朗**

松阪市の概要

<1> 位置と地勢

松阪市は、三重県のほぼ中央に位置し、東は伊勢湾、西は台高山脈と高見山地を境に奈良県に、南は多気郡、北は雲出川を隔てて津市に接しています。

地形は、西部一帯が台高山脈、高見山地、紀伊山地からなる山岳地帯、中央部は丘陵地で、東部一帯には伊勢平野が広がり、北部を雲出川、南部を櫛田川が流れています。



松阪市は後の三越の前身越後屋を江戸に開店させた三井グループ創始者の三井高利の生誕地であり、古くは商業の街として知られるとともに、「古事記伝」の執筆で著名な国学者本居宣長翁、「北海道の名付け親」松浦武四郎翁など優れた先人も多く輩出しています。

また名産の松阪牛は高級ブランド牛肉として、珍重されています。

<2> 気候

概ね東海型の気候区に属し、西部は寒暑の差がやや大きく内陸的な特性を持っています。年間平均気温は14℃～16℃で、降水量は平野部では1,500mm程度ですが、山間部では2,000～2,500mmとかなり多くなっています。

全般的には温暖でおだやかな気候となっています。

<3> 面積

東西50Km、南北37Kmと東西に細長く伸び、総面積で623.77Km²を有し、三重県全体の約10.8%を占めています。地目別にみると、農地82.06Km²(13.2%)、宅地27.98Km²(4.5%)、山林429.57Km²(68.9%)となっており山林の占める割合が高くなっています。

<4> 人口と世帯

平成22年の国勢調査による総人口は168,017人で、県全体の約9%を占めています。

世帯数は、平成22年が63,611世帯で、昭和60年の45,286世帯に比べ25年間で1.4倍の伸びを示しています。

1世帯当たりの人員は、平成22年は2.59人で核家族化が進んでいます。

人口と世帯数の推移

(単位：人)

区 分	昭和 60 年	平成 2 年	平成 7 年	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年
総人口	158,155	159,625	163,131	164,504	168,976	168,017
世帯数	45,826	48,273	52,413	56,087	61,502	63,611
1世帯当たりの人員	3.45	3.31	3.11	2.93	2.75	2.59

< 5 >市の沿革

旧松阪市

明治 2 2 年 市町村制の実施により松阪町となる。
 昭和 8 年 2 月 市制施行により松阪市となる。
 昭和 2 3 年 1 2 月 松江村、朝見村 編入。
 昭和 2 6 年 1 2 月 伊勢寺村 編入。
 昭和 2 7 年 1 2 月 機殿村 編入。
 昭和 2 9 年 1 0 月 花岡町、東黒部村、西黒部村、港村、阿坂村、松ヶ崎村、松尾村 編入。
 昭和 3 0 年 3 月 宇気郷村袖原、飯福田、与原、後山 編入。
 昭和 3 0 年 4 月 漕代村、射和村、茅広江村、大石村 編入。
 昭和 3 2 年 1 0 月 大河内村、櫛田村 編入。

旧嬉野町

明治 2 2 年 市町村制の実施により中郷村、豊地村、中川村、豊田村、中原村となり、小原、上小川、袖原、後山、飯福田、与原が宇気郷村となる。
 昭和 3 0 年 3 月 中郷村、豊地村、中川村、豊田村、中原村並びに宇気郷村大字小原、大字上小川の区域をもって嬉野町となる。

旧三雲町

明治 2 2 年 市町村制の実施により米ノ庄村・天白村・鵲村・小野江村が成立。
 昭和 3 0 年 3 月 4 カ村が合併、三雲村として発足。
 昭和 6 1 年 3 月 町制施行により三雲町となる。

旧飯南町

明治 2 2 年 市町村制の実施により柿野村、粥見村が成立。
 大正 1 3 年 1 月 柿野村が町制施行により柿野町となる。
 昭和 8 年 2 月 粥見村が町制施行により粥見町となる。
 昭和 3 1 年 8 月 柿野町、粥見町が合併し飯南町となる。

旧飯高町

明治 2 2 年 市町村制の実施により宮前村、川俣村、森村、波瀬村の 4 ケ村が発足。
 昭和 3 1 年 8 月 宮前村、川俣村、森村、波瀬村が合併し飯高町となる。

平成 1 7 年 1 月 1 日 松阪市、一志郡嬉野町、一志郡三雲町、飯南郡飯南町、飯南郡飯高町の 5 市町の合併により現松阪市となる。

< 6 > 消防団の沿革

旧松阪市消防団

寛政6年	松阪に消防制度がはじめて布かれた。
明治29年4月1日	松阪消防組が編成された。
昭和14年5月1日	戦時体制となり、松阪市警防団と改称された。
昭和23年8月1日	消防組織法の施行により松阪市消防団として発足する。
昭和41年8月1日	現機構の23分団（432名）となる。（以前は28分団982名）
昭和42年10月1日	現機構の団員定数415名となる。
平成12年7月13日	現機構の団員定数425名となる。
平成12年8月20日	女性消防団員15名が誕生、さくら分団となる。

旧嬉野町消防団の沿革

昭和34年3月26日	消防団条例施行による消防団設置規則で、6分団編成となる。
平成8年3月29日	嬉野町消防団設置規則改正により、団員定数250名となる。
平成8年4月1日	女性消防団員20名が誕生、やまゆり分団となる。

旧三雲町消防団の沿革

昭和30年3月21日	4村合併により、三雲村消防団発足。（団長以下305名、4分団）
昭和32年3月30日	消防団条例制定。
昭和56年2月1日	消防団条例改正により団員定数265名となる。
昭和61年4月1日	町制施行に伴う名称変更のため三雲町消防団となる。

旧飯南町消防団の沿革

昭和31年8月1日	飯南町消防団発足。（団長以下237名、12分団）
昭和45年3月16日	消防団条例改正により団員定数200名となる。
昭和48年8月4日	消防団区域規定改正により4分団となる。
平成3年4月1日	女性消防団員20名が誕生。 消防団条例改正により団員定数220名となる。

旧飯高町消防団の沿革

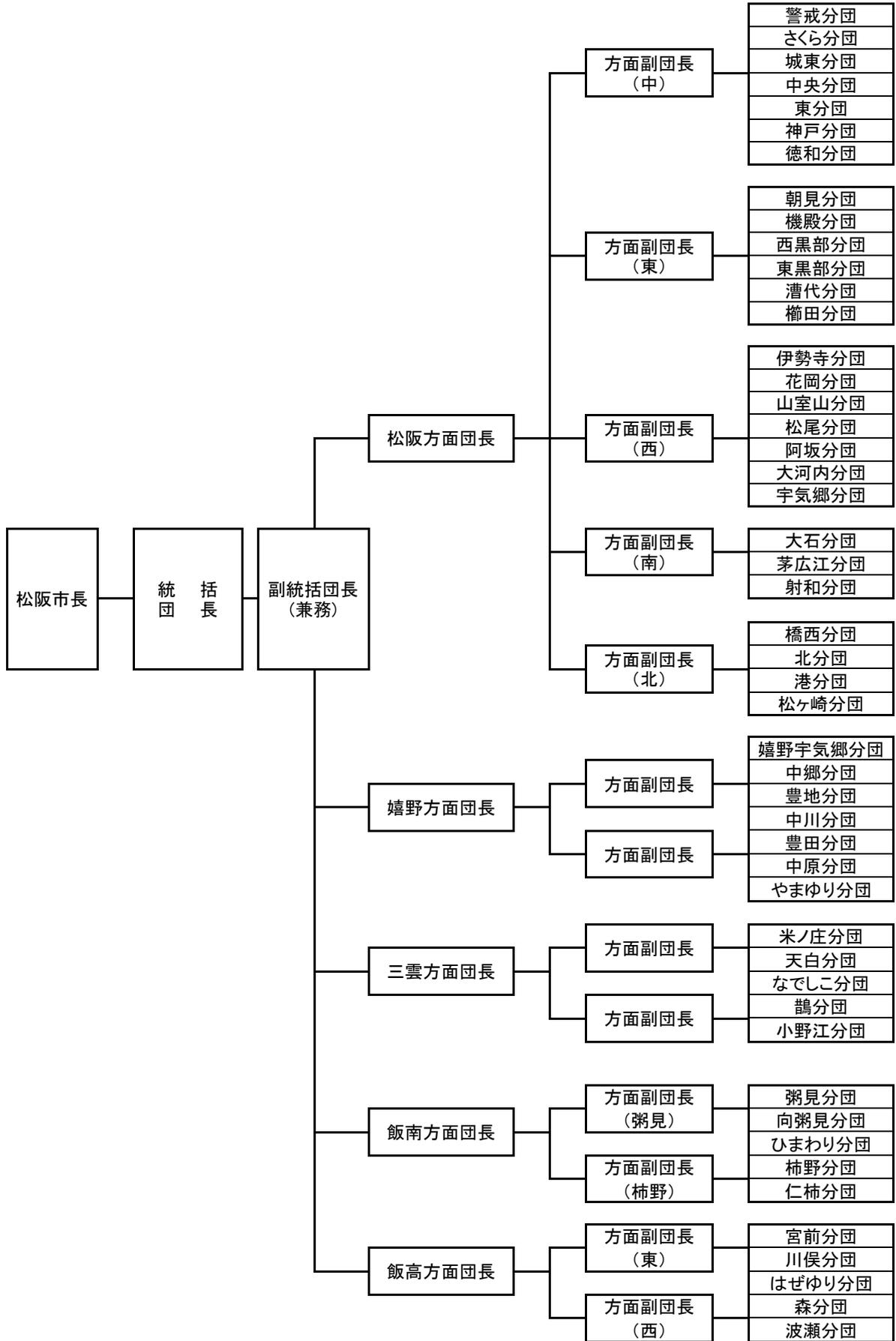
昭和31年9月	町村合併により飯高町消防団として発足する。（団長以下370名）
昭和35年4月	消防団条例改正により副団長を1名とし、団員定数360名となる。
昭和60年3月	消防団条例改正により団員定数260名となる。
平成2年4月	女性消防団員入団。 消防団員定数260名のうち女性団員数20名とする。
平成4年4月	消防団設置規則の改正により副団長を2名とし、団長以下260名となる。

松阪市消防団（新）

平成17年	1月	1日	1市4町の合併により、旧松阪市・旧嬉野町・旧三雲町・旧飯南町・旧飯高町各消防団を統一し、松阪市消防団となる。 団員定数 1,420 名。
平成17年	4月	1日	三雲方面団に女性消防団員10名入団、なでしこ分団となる。
平成17年	4月	17日	新松阪市消防団結団式挙行。 新基準活動服貸与開始。
平成17年	6月	9日	電子メールによる団幹部への災害連絡開始。
平成17年	12月	20日	全分団に消防団波携帯無線電話機配備。
平成18年	3月	20日	新基準盛夏服貸与開始。
平成18年	4月	1日	嬉野方面団の副団長を1名から2名とする。 組織改編により、松阪方面団に3分団（東分団(旧中央分団東町班)・神戸分団(旧神戸分団を徳和分団,神戸分団に分割増員)・花岡分団(旧花岡分団大黒田班を花岡分団に、同山室班を山室山分団に分割増員)）1班（橋西分団2班）を追加し、各分団団員定数を改正する。
平成19年	2月	21日	消防団員増員等の実績、消防庁長官より地域活動特別表彰での表彰を受ける。
平成19年	4月	1日	消防団活動協力事業所表示制度施行。
平成19年	9月	1日	団員定数 1,420 名の確保。
平成20年	3月	7日	日本消防協会 特別表彰「まとい」受章。
平成20年	3月	16日	特別表彰「まとい」受章記念 披露式挙行。
平成21年	2月	27日	消防・防災訓練センター 消防訓練塔竣工。
平成22年	8月	26日	総務省消防庁より「消防団救助資機材搭載型車両」を貸与される。
平成23年	4月	1日	消防団員の処遇改善を目的として、団員報酬を見直し、松阪市消防団条例の一部を改正する。

<7> 松阪市消防団の組織

(団長以下5方面団49分団1420名)



消 防 団 の 定 数

平成24年4月1日現在

地区、分団別	区分	統括団長	方面団長	方面副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員	合計 (定数)
昨年実績		1	5	12	49	49	69	153	1082	1420
今年実員		1	5	12	49	49	69	154	1081	1420

消防団本部 統括団長		1								1	
松 阪 方 面 団	本部		1	5						6	
	警戒分団				1	1	1	2	9	14	
	さくら分団				1	1	1	2	12	17	
	中地区	城東分団				1	1	1	1	14	18
		中央分団				1	1	1	1	17	21
		東分団				1	1	1	1	11	15
		神戸分団				1	1	1	1	14	18
		徳和分団				1	1	1	1	13	17
		朝見分団				1	1	1	1	13	17
	東地区	機殿分団				1	1	1	1	13	17
		西黒部分団				1	1	1	1	13	17
		東黒部分団				1	1	1	1	13	17
		漕代分団				1	1	1	1	13	17
		櫛田分団				1	1	1	1	14	18
	西地区	伊勢寺分団				1	1	1	2	16	21
		花岡分団				1	1	1	1	13	17
		山室山分団				1	1	1	1	14	18
		松尾分団				1	1	1	2	14	19
		阿坂分団				1	1	1	2	15	20
		大河内分団				1	1	1	3	19	25
		宇気郷分団				1	1	1	2	13	18
	南地区	大石分団				1	1	1	2	16	21
		茅広江分団				1	1	1	2	14	19
		射和分団				1	1	1	3	19	25
	北地区	橋西分団				1	1	1	2	19	24
		北分団				1	1	1	2	16	21
		港分団				1	1	1	1	13	17
松ヶ崎分団					1	1	1	2	14	19	
合計		1	1	5	27	27	27	42	384	514	

区分		方面 団長	方面 副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員	合計
地区、分団									
嬉 野 方 面 団	本部	1	1			1	2	23	28
	やまゆり分団			1	1	1	2	9	14
	嬉野宇気郷分団			1	1	1	2	20	25
	中郷分団			1	1	1	2	25	30
	豊地分団			1	1	1	3	33	39
	中川分団			1	1	1	6	31	40
	豊田分団			1	1	1	4	36	43
	中原分団			1	1	1	2	36	41
	合 計	1	1	7	7	8	23	213	260

区分		方面 団長	方面 副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員	合計
地区、分団									
三 雲 方 面 団	本部	1	2						3
	米ノ庄分団			1	1	4	12	46	64
	天白分団			1	1	3	9	49	63
	鵠分団			1	1	3	5	34	44
	小野江分団			1	1	3	6	49	60
	なでしこ分団			1	1	1	1	9	13
	合 計	1	2	5	5	14	33	187	247

区分		方面 団長	方面 副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員	合計
地区、分団									
飯 南 方 面 団	本 部	1	2					5	8
	ひまわり分団			1	1	1	1		4
	粥見分団			1	1	2	6	55	65
	柿野分団			1	1	2	8	48	60
	仁柿分団			1	1	2	3	24	31
	向粥見分団			1	1	2	5	21	30
	合 計	1	2	5	5	9	23	153	198

区分		方面 団長	方面副 団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員	合計
地区、分団									
飯 高 方 面 団	本 部	1	2						3
	はぜゆり分団			1	1	1	1	8	12
	宮前分団			1	1	3	11	56	72
	川俣分団			1	1	3	11	32	48
	森分団			1	1	2	6	24	34
	波瀬分団			1	1	2	4	24	32
	合 計	1	2	5	5	11	33	144	201

消防車両及びポンプ一覧表

平成24年4月1日現在

松阪方面団

区分 分団別	小型動力ポンプ付車両			小型動力ポンプ	
	積載車両	年 式	種別	B-3級	台数
消防団本部	トヨタ	H 3年 8月	普通	ラビット H 3	1
消防団本部	ホンダ	H15年12月	普通		
消防団本部	日産	H18年 9月	乗用		
消防団本部 (総務省消防庁より借受)	イスズ	H22年 8月	普通	ホーハツ H22	1
消防団本部	ホンダ	H 1年11月	軽		
警戒分団	日産	H21年12月	普通		
城東分団	日産	H13年12月	普通	シバウラ H13	1
中央分団	日産	H16年10月	普通	シバウラ H16	1
東分団	ニッサン	H19年10月	普通	ラビット H20	1
神戸分団	日産	H18年12月	普通	シバウラ H18	1
徳和分団	トヨタ	H 7年 1月	普通	シバウラ H 7	1
朝見分団	日産	H 8年12月	普通	シバウラ H 8	1
機殿分団	日産	H24年 2月	普通	シバウラ H24	1
西黒部分団	トヨタ	H 7年12月	普通	ラビット H 7	1
東黒部分団	トヨタ	H18年 3月	普通	ラビット H17	1
漕代分団	トヨタ	H15年11月	普通	ラビット H15	1
櫛田分団	トヨタ	H15年11月	普通	ラビット H15	1
伊勢寺分団伊勢寺班	トヨタ	H 7年 1月	普通	シバウラ H 7	1
伊勢寺分団荒井班	ダイハツ	H13年12月	軽	ラビット H 1	1
花岡分団	トヨタ	H15年 2月	普通	トーハツ H15	1
山室山分団	日産	H18年12月	普通	シバウラ H18	1
松尾分団丹生寺班	いすゞ	H13年 2月	普通	ラビット H13	1
松尾分団西野班	ダイハツ	H12年 3月	軽	ラビット H 1	1
阿坂分団阿坂班	日産	H16年10月	普通	シバウラ H16	1
阿坂分団美濃田班	ダイハツ	H12年12月	軽	シバウラ H 5	1
大河内分団大河内班	トヨタ	H12年 3月	普通	トーハツ H12	1
大河内分団笹川班	ダイハツ	H13年12月	軽	シバウラ H 2	1
大河内分団辻原班	三菱	H10年12月	軽	シバウラ S63	1
宇気郷分団柚原班	日産	H24年 2月	普通	ラビット H24	1
宇気郷分団与原班	日産	H20年12月	普通	トーハツ H20	1
大石分団小片野班	トヨタ	H 7年12月	普通	ラビット H 7	1
大石分団大石班	三菱	H10年12月	軽	ラビット H 4	1
茅広江分団下茅原班	トヨタ	H12年 3月	普通	シバウラ H 7	1
茅広江分団広瀬班	ダイハツ	H12年12月	軽	シバウラ H 3	1
射和分団射和班	日産	H21年12月	普通	ラビット H21	1
射和分団庄班	ダイハツ	H13年12月	軽	ラビット H10	1
射和分団上蛸路班	ダイハツ	H12年 3月	軽	ラビット S62	1
橋西分団1班	日産	H 8年12月	普通	シバウラ H 8	1
橋西分団2班	ダイハツ	H18年12月	軽	トーハツ H18	1
北 分団大口班	トヨタ	H18年 3月	普通	ラビット H17	1
北 分団鎌田班	いすゞ	H13年 2月	普通	ラビット H13	1
港 分団	日産	H13年12月	普通	シバウラ H13	1
松ヶ崎分団松崎浦班	トヨタ	H22年10月	普通	トーハツ H22	1
松ヶ崎分団六軒班	ダイハツ	H13年12月	軽	トーハツ H12	1

嬉野方面団

区分 分団	消防車両			小型動力ポンプ	
	積載車両	年式	種別		台数
本部	スバル	H12年 3月	軽		
本部	ホンダ	H17年 3月	普通		
本部班	いすゞ	H13年10月	普通	ラビット H13	1
嬉野宇気郷分団	いすゞ	H11年12月	普通	ラビット H11	1
嬉野宇気郷分団上小川班	ホンダ	H 5年12月	軽	ラビット H 5	1
中郷分団	いすゞ	平成12年11月	普通	ラビット H12	1
豊地分団	トヨタ	平成10年12月	普通	ラビット H10	1
中川分団	いすゞ	平成11年12月	普通	ラビット H11	1
豊田分団	トヨタ	平成10年12月	普通	ラビット H10	1
中原分団	いすゞ	平成12年11月	普通	ラビット H12	1

三雲方面団

区分 分団	消防車両			小型動力ポンプ	
	積載車両	年式	種別	B-3級	
本部				ラビット H18	1
米ノ庄分団第1部久米	ダイハツ	H19年10月	軽	シバウラ H19	1
米ノ庄分団第2部市場庄	日産	H16年12月	普通	ラビット H16	1
米ノ庄分団第3部中ノ庄	ダイハツ	H19年10月	軽	シバウラ H19	1
米ノ庄分団第4部上ノ庄	ダイハツ	H18年 3月	軽	トーハツ H18	1
天白分団第1部 曾原	日産	H16年 2月	普通	ラビット H16	1
天白分団第2部 小津	ダイハツ	H19年10月	軽	シバウラ H19	1
天白分団第3部 中道	ダイハツ	H18年 3月	軽	トーハツ H18	1
鵜分団第1部 笠松	ダイハツ	H19年10月	軽	シバウラ H19	1
鵜分団第2部 皇合	ダイハツ	H14年 1月	軽	ラビット H14	1
鵜分団第2部 岡田				ラビット H17	1
鵜分団第3部 五主	ダイハツ	H18年11月	軽	トーハツ H18	1
小野江分団第1部西小野江	トヨタ	H10年 8月	普通	ラビット H10	1
小野江分団第1部東小野江				ラビット H 2	1
小野江分団第2部 肥留	ダイハツ	H18年11月	軽	トーハツ H18	1
小野江分団第3部 基目				ラビット H 2	1
小野江分団第3部 舞出	ダイハツ	H19年10月	軽	シバウラ H19	1

飯南方面団

区分 分団	消防車輛			小型動力ポンプ	
	積載車輛	年式	種別	B-3級	
本 部	トヨタ	H17年11月	普通	シバウラ H17	1
本 部	三菱	H 8年 9月	軽		
本 部				ラビット H 4	1
粥見分団1班	日産	H20年12月	普通	トーハツ H20	1
粥見分団2班	スバル	H23年12月	軽	ラビット H23	1
粥見分団3班	ダイハツ	H22年11月	軽	トーハツ H22	1
粥見分団4班	日産	H21年12月	普通	ラビット H21	1
粥見分団5班	スバル	H21年12月	軽	ラビット H21	1
粥見分団6班	ダイハツ	H22年11月	軽	トーハツ H22	1
柿野分団1班	ホンダ	H12年11月	軽	シバウラ H12	1
柿野分団2班	スバル	H23年12月	軽	ラビット H23	1
柿野分団3班	ダイハツ	H21年11月	軽	シバウラH21 (B2)	1
柿野分団4班	ホンダ	H 7年 3月	軽	シバウラ H 7	1
柿野分団5班	ホンダ	H 8年 2月	軽	トーハツ H 8	1
柿野分団6班	ホンダ	H 9年 3月	軽	ラビット H 9	1
柿野分団7班	スバル	H21年12月	軽	ラビット H21	1
柿野分団8班	ダイハツ	H19年12月	軽	トーハツ H19	1
仁柿分団1班	ダイハツ	H21年11月	軽	シバウラH21 (B2)	1
仁柿分団2班	スバル	H18年12月	軽	ラビット H18	1
仁柿分団3班	ダイハツ	H21年11月	軽	シバウラH21 (B2)	1
向粥見分団1班	スバル	H21年12月	軽	ラビット H21	1
向粥見分団2班	ホンダ	H11年12月	軽	ラビット H 4	1
向粥見分団3班	ホンダ	H13年12月	軽	シバウラ S60	1
向粥見分団4班	スバル	H23年12月	軽	ラビット H23	1
向粥見分団5班	日産	H21年12月	普通	ラビット H21	1

飯高方面団

分団	区分	消防車輛			小型動力ポンプ	
		積載車輛	年式	種別	B-3級	
本部					ラビット H18	1
宮前分団1班 下滝野		日産	H21年11月	普通	シバウラH21(B2)	1
					ラビット H11	1
宮前分団2班 宮前		ニッサン	H21年11月	普通	シバウラH21(B2)	1
					ラビットS60(C級)	1
宮前分団3班 作滝		トヨタ	H17年12月	普通	トーハツ H17	1
					ラビット H5	1
宮前分団3班 赤桶		スバル	H9年3月	軽	ラビット H9	1
川俣分団1班 田引		日産	H18年12月	普通	ラビット H18	1
川俣分団2班 栗野		スバル	H17年12月	軽	ラビット H17	1
					ラビット H5	1
川俣分団2班 富永		日産	H21年11月	普通	トーハツ H21	1
					ラビット H6	1
					ラビットH18(C級)	1
川俣分団3班 宮本		ダイハツ	H19年12月	軽	トーハツ H19	1
					ラビット H18	1
川俣分団3班 七日市		スバル	H10年3月	軽	ラビット H10	1
森分団1班 犬飼					ラビット H5	1
森分団1班 深野		スバル	H18年12月	軽	ラビット H18	1
森分団2班 家野		日産	H21年11月	普通	トーハツ H21	1
					ラビットS40(C級)	1
森分団2班 久谷		日産	H20年12月	普通	トーハツ H20	1
森分団3班 塩ヶ瀬		スバル	H10年10月	軽	ラビット H10	1
波瀬分団1班 乙栗子		ダイハツ	H19年12月	軽	トーハツ H19	1
					ラビット H5	1
波瀬分団1班 加波		日産	H20年12月	普通	トーハツ H20	1
波瀬分団1班 桑原		スバル	H17年12月	軽	ラビット H17	1
波瀬分団2班 波瀬		日産	H21年11月	普通	トーハツ H21	1
波瀬分団2班 美滝		日産	H18年12月	普通	ラビット H18	1

方面団別	区分	小型動力ポンプ付車両		その他車両		小型動力ポンプ等	
		普通車両	軽車両	普通車両	軽車両	B-3(2)	その他
松阪方面団		29	11	3	1	40	
嬉野方面団		7	1	1	1	8	
三雲方面団		3	10			17	
飯南方面団		4	19		1	24	
飯高方面団		10	8			26	3
団合計		53	49	4	3	115	3

消防団員の処遇

報酬(年額)

(単位：円)

統括団長	副統括団長	方面団長	方面副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員
120,000	80,000	80,000	60,000	50,000	35,000	32,000	31,000	30,000

機械器具点検手当

1人、年額 4,800 円支給

訓練等出場手当

1人、1回につき 3,500 円支給

入校手当

1人、1日につき 7,000 円支給

水火災等出動手当

1人、1回につき 4,000 円

ラッパ隊手当

1人、年額 7,000 円支給

隊長手当、年額 3,000 円支給

※ 注：報酬及び諸手当は年間2回に分割して支給

公務災害補償等

団員が公務により死亡し、負傷し、若しくは疾病等にかかった場合には、その団員又はその者の遺族若しくは被扶養者に対し損害を補償します。

退職報償金

団員が退職した場合には、別に定める退職報償金を支給します。

被服等の支給及び貸与

活動服、アポロキャップ、ヘルメット、団員手帳、長靴 …………… 全員

Tシャツ、雨衣、ケブラー手袋

盛夏服 …………… 全員

制服、制帽 …………… 分団長以上及び女性団員

消防団の主な活動

<1>全市的に行う訓練等

本部幹部会議
出初式
辞令交付式（入団式）入団者訓練 幹部研修
松阪市小型ポンプ操法大会

<2>各方面で行う訓練行事等

方面幹部会議
夏期訓練
防災訓練
水防訓練
防火パレード
年末防火広報火災予防運動
普通救命講習会
年末夜警
地元放水訓練
ラッパ隊訓練
消防団車庫点検
祭り等の警備

<3>女性消防団の活動

普通救命講習会
保育園訪問
人形劇（防火・救急啓発）
防火パレード
防火チラシ配布
年末防火広報
その他広報活動
消防団ホームページによる広報

<http://www.city.matsusaka.mie.jp/www/genre/00000000000000/1000000000280/index.html>

ケーブルテレビ（防火啓発）

平成23年度消防団活動一覧

月	日	曜日	松阪方面団	嬉野方面団	三雲方面団	飯南方面	飯高方面団	
			行事	行事	行事	行事	行事	
4	2	土					春祭り警護	
	3	日		幹部訓練 方面団幹部会議				
	5	火	団本部幹部会議					
	7	木			方面団幹部会議			
	8	金	方面団幹部会議					
	10	日			幹部・新入団員訓練			
	11	月				方面団幹部会議	方面団幹部会議	
	17	日	分団長以上訓練					
	24	日	新入団員辞令交付式・入団者訓練					
25	月	松阪地区消防団協議会（松阪・多気・明和団長会議）						
5	15~16	日~月	消防団行政視察研修（兵庫県/奈良市消防団）					
	21	土		方面団幹部会議				
	22	日	三重四川水防演習 （鈴鹿川）	春季訓練		機械器具操作訓練		
	29	日			方面団水防訓練			
6	2	木	団本部幹部会議					
	3	金				方面団幹部会議		
	5	日	第1回安全運転研修					
	8	水			方面団役員会		方面団幹部会議	
	9	木	方面団幹部会議					
	12	日	新入団員普通救命講習/第2回安全運転研修					
	19	日				夏季訓練	普通救命講習	
	26	日	操法出場隊指導（副団長以上と操法大会出場分団）					
30	木		応急手当講習会		火災防御訓練 （米ノ庄・鶴・小野江）			
7	2	土				水辺のカーニバル警備		
	3	日					本部点検 （川俣・波瀬）	
	10	日					本部点検（宮前）	
	15	金					本部点検（森）	
	17	日	三重県消防協会松阪支会研修会					
	23	土		方面団幹部会議			訓練塔訓練 （川俣・波瀬）	
	31	日		祭り警備				
8	7	日	三重県消防協会松阪支会研修会					
	8	月					山岳訓練	
	10	水				方面団幹部会議		
	11	木	方面団幹部会議					
	14	日					祭り警護	
	19	金			方面団役員会			
	26	金					方面団幹部会議	
9	11	日	健康フェスティバル				訓練塔訓練 （森・宮前）	
	23	金		秋季訓練				
	24	土		方面団幹部会議				
	28	水		方面団操法発表				

月	日	曜日	松阪方面団	嬉野方面団	三雲方面団	飯南方面	飯高方面団	
			行事	行事	行事	行事	行事	
10	2	日			祭り警備		研修会	
	4	火	団本部幹部会議					
	6	木	方面団幹部会議			方面団幹部会議		
	9	日	松阪市消防団小ポンプ操法大会(訓練センター)					
			(城東・機殿・阿阪 茅広江・松ヶ崎分団)	(中川分団)	(天白分団)	(飯南方面団)	(川俣分団)	
	12	水	第3級陸上特殊無線技師免許講習					
	15	土					応急手当訓練	
	17	月				方面団幹部会議		
	18	火			方面団役員会			
	23	日	松阪市総合防災訓練					
11	6	日	消防団車庫点検					
	11~12	金・土	第17回女性消防団活性化香川大会					
	9~15	水~火	秋季全国火災予防運動					
	19~20	土・日	幹部科入校					
	27	日			秋季訓練			
	30	水	団本部幹部会議					
12	4	日	消防団健康診断					
	6	火				方面団幹部会議		
	17	土					方面団幹部会議	
	18	日		方面団幹部会議				
	21	水	方面団幹部会議					
	28~31	水~土	年末夜警	年末夜警(30日)	年末夜警(30日)	年末夜警(29・30日)	年末警戒(30日)	
1	9	月	松阪市消防出初式(松阪市民文化会館・鈴の森公園)					
						新春一斉放水訓練		
	22	日	文化財保護デー訓練	文化財保護デー訓練		文化財保護デー訓練		
2	7	火	団本部幹部会議					
	9	木	方面団幹部会議			方面団幹部会議	方面団幹部会議	
	17	金					飯南・飯高合同幹部訓練	
	19	日	消防団員一日教育(警防講習会・消防学校)					
	22	水			方面団役員会			
	26	日				車庫点検	研修会	
3	1~7	木~水	春季全国火災予防運動					
	7	水			図上訓練(天白)			
	11	日	三重県消防大会(三重県総合文化センター)					
	16	金			図上訓練(米ノ庄)			
	18	日			図上訓練(鶯)			
	24	土			図上訓練(小野江)			
	25	日		車庫点検 方面団幹部会議				
31	土					祭り警護		

消防団の取組み等

1 災害への対応能力の向上

(1) 大規模地震を想定した災害対応図上訓練

大規模地震発生時における消防団の対応力の向上、及び関係機関等との連携強化により、更なる地域防災力の強化を図ることを目的として、平成 22 年度より図上訓練を実施している。



(2) 津波発生による避難訓練

東日本大震災による津波被害を受け、住民を確実にかつ安全に避難させるため、図上だけではなく、実際の避難場所まで歩いて、避難経路、時間等の検証を行い課題等を検証した。今後も各方面団、地区にあった避難経路等を検証し、住民を確実にかつ安全に避難誘導できるように実施していく。



(3) 消防訓練塔を活用した消火訓練

消防団員が火災活動を迅速・確実に対応するための技術を身に付けるための訓練施設「消防訓練塔」を松阪市消防・防災訓練センターに設置し、火災対応訓練等の訓練を定期的の実施している。

(消防訓練塔を活用した消火訓練の様子)



(図上訓練の様子)

2 通信体制の整備

東日本大震災を受け、通更なる通信体制を確立し最前線で活動している団員がより安全に活動できるよう、分団内での通信を充実させるために各車両に3機の通信機器と情報収集用ラジオを配備する。

火災や地震・風水害等の災害発時、消防団が効果的な活動を行うためには、指揮統制や情報の共有等が必要不可欠となることから、平成15年度より消防団波の携帯無線を各分団に計画的に配備し、現在、135基の携帯無線機を活用し、消防団活動を実施している。



(無線機取扱訓練の様子)

3 安全管理体制の確立

(1) 安全管理員と伝令員の設定

消防団活動の安全管理の徹底を図るため、現場で団員の活動を監視し、危険行動等の危険要因を排除する安全管理員（副分団長）と、現場指揮本部と現場活動中の分団長の無線連絡を専門に行う伝令員（部長又は班長）を各分団で任命し、災害現場等での事故防止に努めている。また、安全管理員と伝令員には、それぞれ反射ベストと腕章の装着を義務付けている。



(訓練での安全管理員の様子)



(伝令員の無線訓練の様子)

(2) 安全運転研修の実施

平成 19 年度から自動車学校での運転適性検査、消防車両を使用した緊急運転診断、同乗者安全確認診断等の安全運転研修事業を行い、車両運用時の安全管理の徹底を図っている。



(緊急運転診断の様子)



(運転適正検査の様子)

4 防火・救急啓発活動

火災予防思想や、応急手当に関する正しい知識と技術を地域住民に対して、解りやすく、また、幅広く普及させるため、平成 20 年より女性消防団による手作りの人形劇により防火・救急啓発活動を展開している。



(イベントでの人形劇の様子)

松阪市消防団の無線機配置図

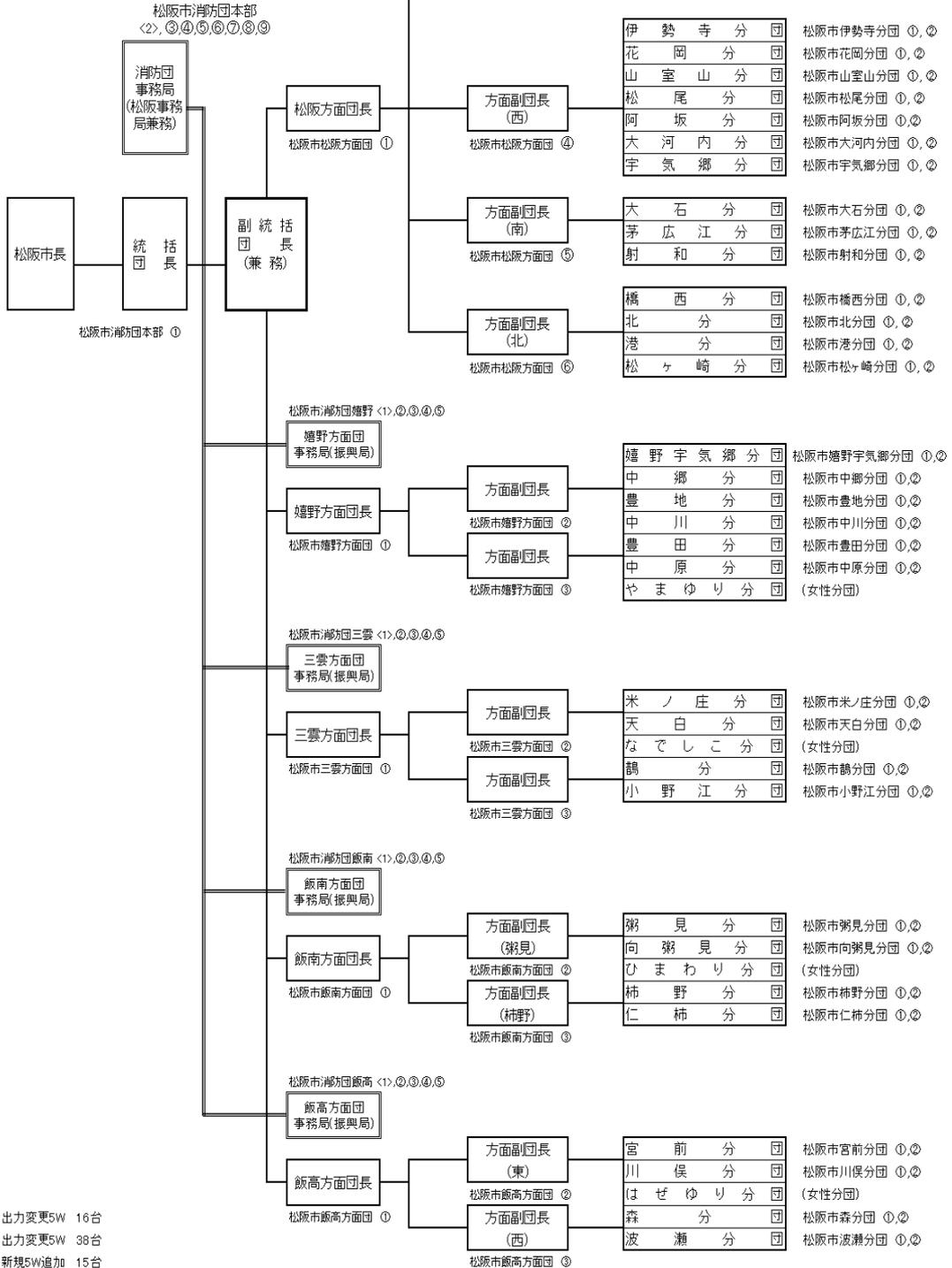
2010年9月6日

- 1) 松阪方面団及び松阪市消防団本部全て5Wに変更済 計63台
- 2) 嬉野、三雲、飯南、飯高各方面団の総ては3.5W 計52台
- 3) 松阪市消防団〇〇<1>及び松阪市消防団本部<2>は、可搬型 10W 計5台
- 4) 携帯型無線機5W新規(各団本部へ3基追加) 計15台

総計 135局

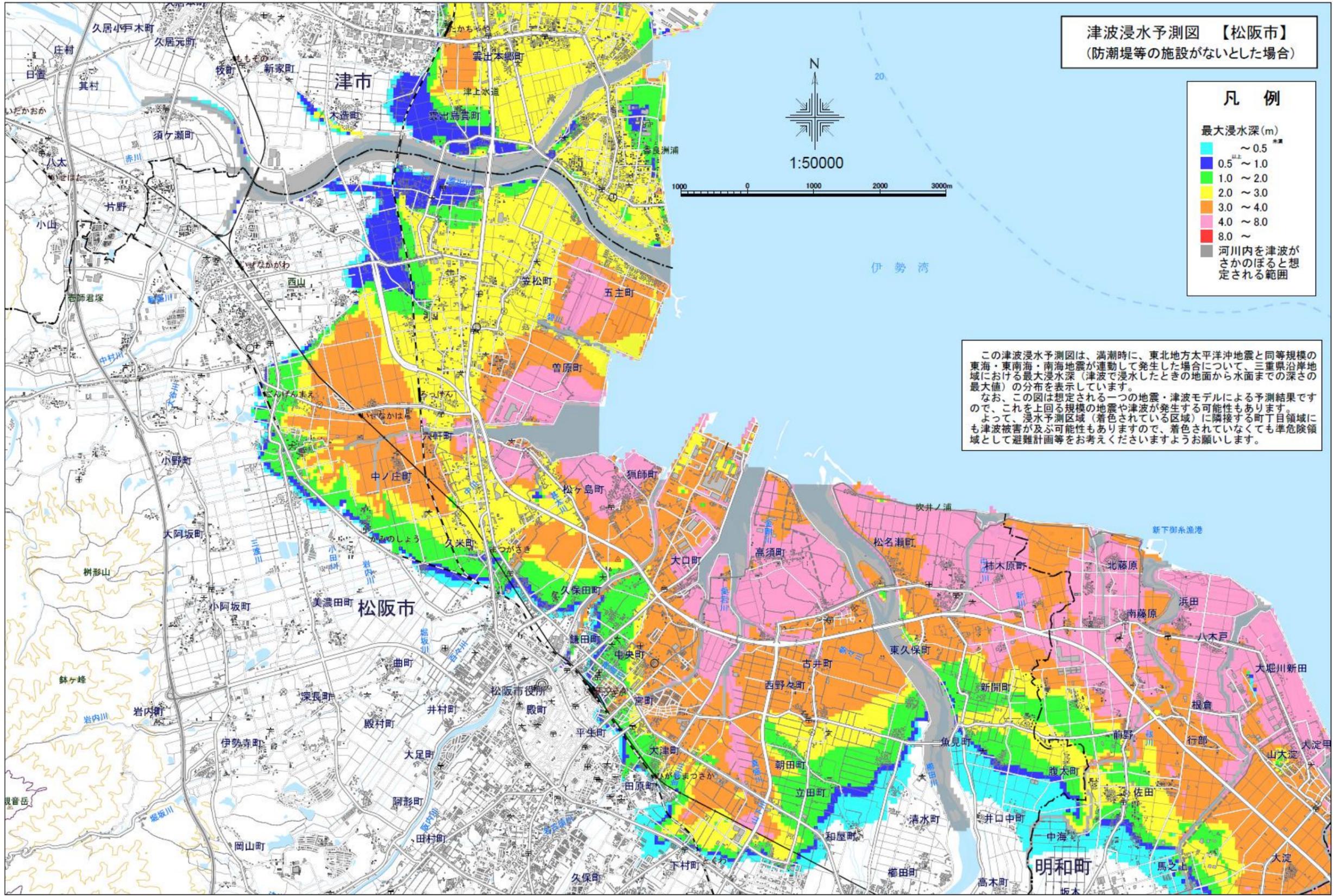
呼出名称 ○数字→5W

呼出名称 <数字→10W (消防団波及び松阪消防波搭載)



H20年度 出力変更5W 16台
 H22年度 出力変更5W 38台
 H22年度 新規5W追加 15台

津波浸水予測図 【松阪市】
(防潮堤等の施設がないとした場合)

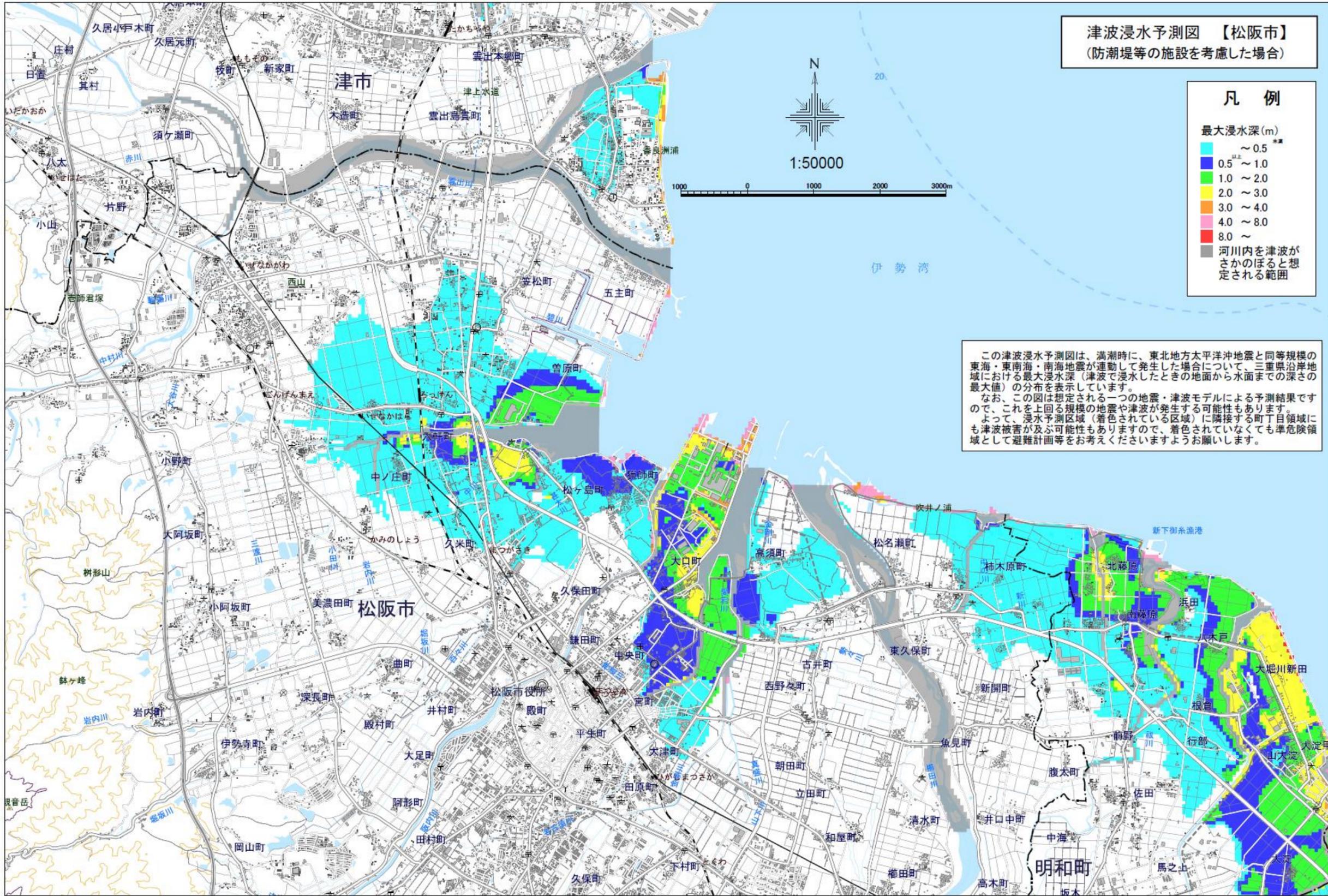


凡例

最大浸水深 (m)	
~ 0.5	※
0.5以上 ~ 1.0	
1.0 ~ 2.0	
2.0 ~ 3.0	
3.0 ~ 4.0	
4.0 ~ 8.0	
8.0 ~	
河川内を津波がさかのぼると想定される範囲	

この津波浸水予測図は、満潮時に、東北地方太平洋沖地震と同等規模の東海・東南海・南海地震が連動して発生した場合について、三重県沿岸域における最大浸水深（津波で浸水したときの地面から水面までの深さの最大値）の分布を表示しています。
 なお、この図は想定される一つの地震・津波モデルによる予測結果ですので、これを上回る規模の地震や津波が発生する可能性もあります。よって、浸水予測区域（着色されている区域）に隣接する町丁目領域にも津波被害が及ぶ可能性もありますので、着色されていなくても準危険領域として避難計画等をお考えくださいますようお願いいたします。

この地図は三重県自治会館組合管理者の承認を得て、同組合所管の「2006三重県共有デジタル地図（数値地形図50000）」を使用し、調製したものである。（承認番号：三自治第138号）



津波浸水予測図【松阪市】
(防潮堤等の施設を考慮した場合)

凡例

最大浸水深(m)

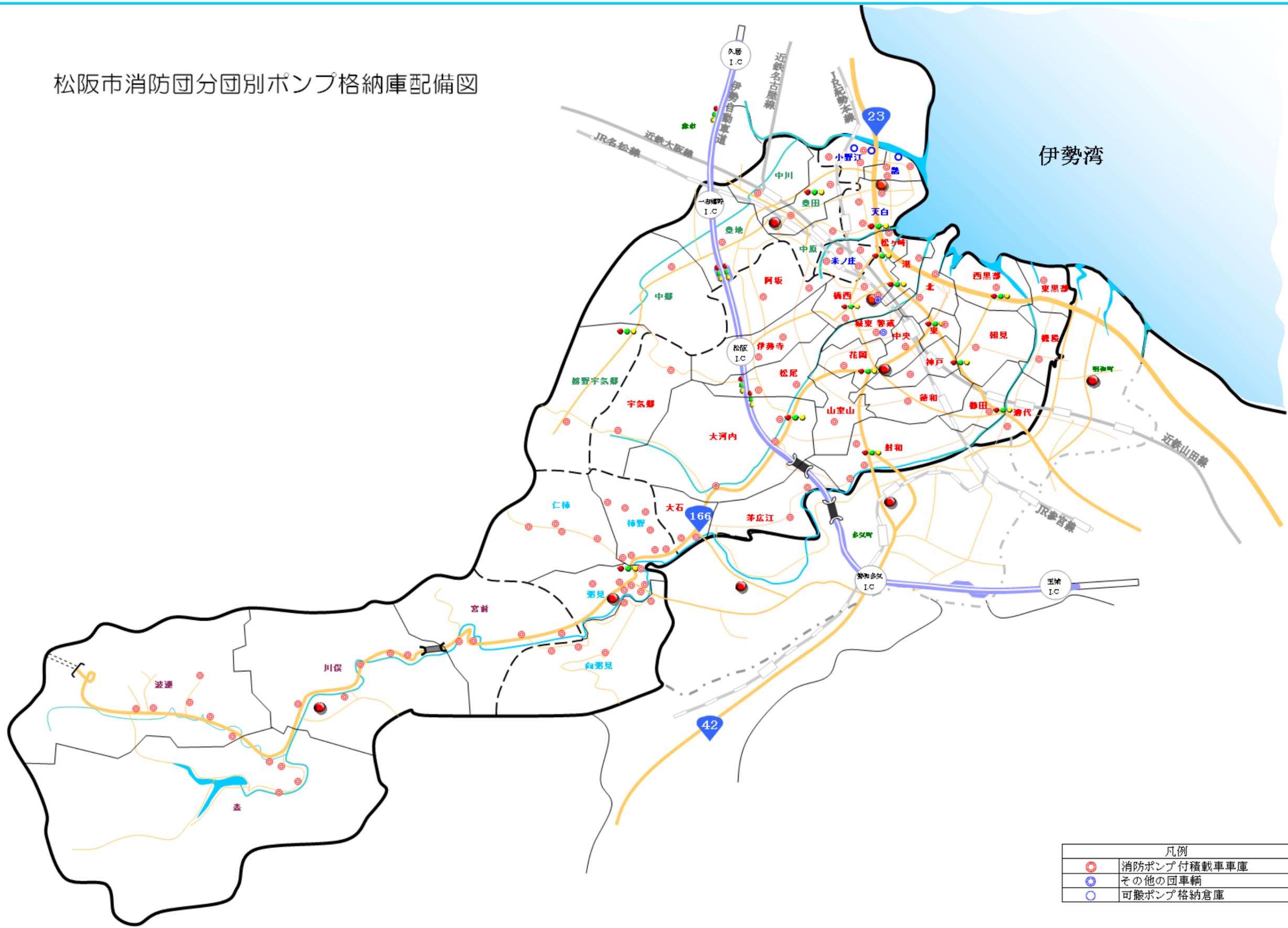
- ~ 0.5
- 0.5 ~ 1.0
- 1.0 ~ 2.0
- 2.0 ~ 3.0
- 3.0 ~ 4.0
- 4.0 ~ 8.0
- 8.0 ~

河川内を津波がさかのぼると想定される範囲

この津波浸水予測図は、満潮時に、東北地方太平洋沖地震と同規模の東海・東南海・南海地震が連動して発生した場合について、三重県沿岸地域における最大浸水深（津波で浸水したときの地面から水面までの深さの最大値）の分布を表示しています。
 なお、この図は想定される一つの地震・津波モデルによる予測結果ですので、これを上回る規模の地震や津波が発生する可能性もあります。よって、浸水予測区域（着色されている区域）に隣接する町丁目領域にも津波被害が及ぶ可能性がありますので、着色されていなくても準危険領域として避難計画等をお考えくださいますようお願いいたします。

この地図は三重県自治会館組合管理者の承認を得て、同組合所管の「2006三重県共有デジタル地図（数値地形図50000）」を使用し、調製したものである。（承認番号：三自治第138号）

松阪市消防団分団別ポンプ格納庫配備図





松阪市消防団

〒515-0818

三重県松阪市川井町 1001 番地 1 (松阪地区広域消防組合消防本部内)

松阪市消防団事務局 TEL 0598-25-1414 FAX 0598-21-3080